

共に歩む市民の会

会報

1998年2月18日 発行
たまり場広報委員会

第2号

☎ 241-0005
横浜市旭区白根 3-2-5
☎ 045-953-6727

これぞ私の贅沢！

「共に歩む市民の会」副代表 紺野 義彦

縁側から見える木々の緑が一段と鮮やかさを増してきました。「たまり場」がOpenしたのは、丁度柿の実が赤く色づき始めた頃でした。縁側はタバコをふかしながら、ほっと一息つくには格好の場所として、私のお気に入りの場所になっております。皆様方もこの「たまり場」でお気に入りの場所がおありなのではないでしょうか。そして、そこで、どのような利用をされているのでしょうか。

当初は、水曜日と土曜日の週2日のみのOpenとやや控え目でしたが、11月に入り、「木々の会」主催の夕食会が始まり、大晦日には、利用者の方々からの強い希望でオールナイトOpenも実現しました。また、今年の3月からは、緊急避難場所としての宿泊サービスも開始となり、より多くの利用方法が可能になってきました。これらは、すべて、利用者の方々からの“声”で始まったものです。

今現在、月100人以上の方が「たまり場」を利用しています。この方々からの“声”を一つでも多く実現していきたいと幹事一同検討を重ねております。

これからも、皆様からのたくさんの“声”を寄せていただき、引き続き、暖かい支援をお願い申し上げます。

そろそろ縁側からは紫陽花が目を楽しませてくれる季節です。タバコをふかしながら、雨に光る紫陽花を眺め、ゆったりとした時を過ごす——これぞ、贅沢というものでしょう。皆様いかがですか？

「たまり場」の利用状況

	開所日数	(うち夕食会)	延べ人数
2月	11日	2回	107人
3月	10日	2回	72人
4月	11日	2回	96人

たまり場に寄せて

▷私がここに移ってきて1か月以上が過ぎ、庭に木々の緑も日々色鮮やかになってきました。庭には、トリ、ネコ、狸も（2度程）やってきて、ここにはまだ自然が残っているんだと驚いています。そしてこの家、この空間、のんびりさせてくれます。メンバーさんたちも少しづつですが増えていくような気もします。この空間がこれからも長く続けていけたらいいと思いますが、これも色々な人の助けを必要としているのでしょうか。
志田 信司

♪冬枯の庭に梅が咲いて、雪景色を見たのがつい先日のように思われますが、もう3ヶ月も経ってしまいました。ひと月近くも行かないうちに、庭が新緑で眩しいほどに変身してしまいました。庭の移り変わりが楽しみです。庭の草取りをしてくださった方、こたつのセットをいつの間に片づけてくださった方、ありがとうございました。
旭カンパニー 北市 安子

○名前をたまり場から、日溜まりの家という暖かみのある名前に変更する。横浜市の各作業所にたまり場と言うところを紹介する。地域住民、とたまり場にきている人たちとの交流会を開く。月1回もしくは年1回、地域住民とたまり場に来ている人達との交流会を開く
足立 文夫

§ 薫風爽やかな季節、「市民の会」発足以来丁度半年になりました。「たまり場」は、くつろぎの場として、交流の場としてその意義は、利用ノートや会報創刊号に種々みなさんから語られています。当初期待されていたより以上の好結果なのかもしれません。「たまり場」に根付きつつある共生の場をさらに発展させ、同様の場が相鉄沿線に広く拡がり、根付いていくことを思わずにはいられません。そして更には、Self Help活動、就労支援活動……等々、現実の共生社会へと展開していくたらと、勝手に思いを巡らせたりしております。先ずは、身近なここ「たまり場」をより充実させ、皆でもっと夢を語り合えたらとおもいます。そして、少しづつでも夢に近づいて行けたらと。
大阪 一敏



この号から、「たまり場」周辺にある家族会、グループ・ホーム、作業所、病院デイケアー等々を紹介していきたいと思います。

《作業所紹介 『旭カンパニー』》

相鉄線希望ヶ丘駅から徒歩5分という場所にある『旭カンパニー』では、メンバーが『ほっとできる場所』として日々活動しています。作業は午前を中心とし、午後は対象的に自由時間にあてています。例を挙げれば、近所の公園へ散歩やカラオケ大会など開放的な時間を持っています。

メンバーの年齢は20代から70代と幅広く、手書き葉書を作ったり、ソフトボール、ソフトバレーボールをしたり、刺し子を縫う人、アクリルたわしやカゴを編む人、四畳半で横になる人など過ごし方も様々です。この様に作業だけにとらわれず、運動や趣味を採り入れながら皆が無理せず付き合える場所を目指しています。

《グループホーム『ハイツ川井』紹介》

「ただいま。」「おかえり。」

しばらくするとテレビやラジオ、CDの音。洗濯機や掃除機の音。そして皆の話し声、鼻歌や笑い声、いろんな生活の音が聞こえてきます。グループホーム「ハイツ川井」では、こんな毎日が定着してきて、今年3年目の春を迎えました。

ところで「グループホームって？」と初耳の人もいるかもしれません。また、「聞いたことあるけどいったい何？」と思われるかもしれません。答えは簡単明瞭、グループホームは「家」なのです。そう、皆さんと同じ帰る「家」です。現在、横浜市には22か所のグループホームがあります。それぞれアパートだったり、一軒屋タイプだったりと建物の形はいろいろですが、そこでは5~6人の人が共同生活をしています。作業所やデイケアなどと比べて知名度が低いのは、そこに入人が住んでいるので、「ああ、あそこにあるグループホーム何何ね。」と誰でも知ってるというわけにはいかないからでしょう。

さて、坂の多い住宅街の一角に「ハイツ川井」はあります。アパートっぽい名に似合はず、一見、2階建ての民家なので、大抵宅急便の配達の人は一度は迷います。また、別に山奥ではないのですが、ある晩、狸が出没したこともあります。鳥の声が聞こえる静かないいところです。（周りにちゃんと家のある住宅街ですので。本トに。）

現在、男性4人・女性2人で暮らしています。6畳一間・押し入れ付きの個室があり、共同のLDK・トイレ・浴室があります。門限・消灯などはありません。外出も自由です。全員、ひと月毎に家賃とかかった水光熱費を支払います。残りの生活費は自分でやりくりします。個室はプライベート空間でそれぞれの世界が広がっています。皆さん、自分で買った気にいったものに囲まれて生活なさっています。

「ハイツ川井」の台所は一つしかないので、夕食は全員で協力して作っています。試行錯誤して、共同で使う部分をうまく分担してやっています。「は？料理？初めて」「夕食の買い物なんかしたこと無いよ」なんていう人もいて初めのうちは汗だくで料理を作っていましたが、今では得意メニューがある人もいます。食後の片付けが終わった後、野球を見ながら、ビールを傾けてのんびりと過ごす、なんてこともあります。

皆で誕生日にはそれぞれお祝いをしたり、外食したり、カラオケや海水浴にもいきました。年に一回、旅行にも出かけています。今年は二泊旅行で、皆せっせとお金を溜めています。

初めは赤の他人だった6人が、突然一つ屋根の下で暮らし始め、同じ釜の飯を食べているのです。それぞれが今まで違う人生を歩んできたので、もちろん、生活習慣や価値観は全く違います。何も起きないわけありません。いろんなことがこの二年間でもありました。しかし、皆「乗り越えてきた」という自信のようなものを感じます。毎日の積み重ねの大切さをつくづく想います。

今日も「ハイツ川井」はいろんな音でいっぱいです。



(職員 喜田 博美)

とある日の「たまり場」より

♡4番乗りだった。人が3人いた。ここは楽しい！いい時代ですねー。正に文明病と言う名のつくこの病気。中学生がすぐきれるのも、世の中全体の超競争的なことも原因だと思う。これからますますあらゆる所で“生き残り”をかけての競争が飛び交うそうだ。あーゾっとする。そんな中で、私の憧れは深まる…それは「マイペースの」「自分を見せようとせず」昔のことわざの「能ある鷹は爪隠す」様な人っているのかなー？年の功という言葉もある様に、年季のはいった人間は、いつも自分が受け身になって相手をたてる。やる気にさせる…人っているよねー！自分に自信のある人って最高。何か1つの事をずっと続けた人って、素晴らしいと思う。そういう人の近くにいると私は安心する。

1つの事を極めるといつても、それが病気であるとしたら、何とも迷惑な～私はもう7年も抱えてる。それも年々自信をなくす。そして私は残酷になり、目つきが悪くなる。ここにいると少しは休まる。早く治りたい。
小林薫子

◆障害をもつ人達が自由に活動できる場を町のなかに作っていこう「やればできる」のエネルギーを頂きました。
加藤 たけ子（アトリエ・空、つくらの会、カシオペア）

□4日目ぶりにお日様の笑顔が出ました。20度を越えてポカポカ陽気。はなみずきの枝先で「チチチッ」とさえずっているのは、「ホホジロ」と志田さんに教えてもらいました。「今朝7時ごろ狸が庭に来ていた！ウインナーをやろうとしたら、逃げて消えちゃった」とのことでした。庭の櫻は満開です。松元

☆『夜の夕食会に参加して』“何を作ろうかな～”と朝から考えていた。友達の子（木村さん）も今日は、家に来る予定だったので今日、イブニングのあることを知り、思い切って、子供2人と参加した。栄養満点で、家で作るよりずっとずっとおいしかった。子供たちも大満足で、食後もゲームで遊んでいる。

また連れて参加したい。
むくどりの家 内田

☆『はじめて来ました』　すごい大きな家！！。ゆったりしていて、気分もゆったりする。今日は下の子が内田さんに先に連れて来て頂いたので家に帰ってゆっくり感想を聞いてみよう。次に来る時は、是非私も参加したいです
鶴ヶ峰 木村



「ある日のメニュー」

□ひじきごはん	□種実のもやしサラダ
□豆腐のムニエル	□みそ汁
□海草羹の納豆ソースかけ	

チャンコ番 阿部川 てつ子



〔編集後記〕

◇今年は、季節が早目に移っているのでしょうか、台所南の石楠花の苔がふくらんだと思うまもなく咲いては散りました。夕食会の折り、庭から何とも言えずいい香り、さがし当てたのはミカンの花でした。

今は、大木の狭間で日本紫陽花が夜目にはの白く、近寄ると以外な程たくさん咲いています。「たまり場」ニュースも2号目。四季折々心和ませる庭の木々の様に豊かなものとなることを願いつつ…。

（吉田）

文才の無いこの私が広報担当なんて…と気分はおもいっきり梅雨状態。でも、皆さんのが沢山の素晴らしい文章を一番に目を通し、レイアウト出来るという思いも掛けないメリットに気がついでしました。これぞ最高の贅沢ですね。梅雨明けの青空を待ちわびつつ…。
（松迫）

◇ここに来ると、色々な人に出逢えます。色々な話が飛び出して、尽きることがないとも思えます。そんなこの魅力のあるこの場所へもっともっと多くの人が来てほしいと思います。これから夏がやって来ます。「たまり場」では早くも蚊取り線香が焚かれ、暑い夏の訪れを予感させつつ…。
（沖柳）